30・40代男性の株式投資要因

— 経済実験手法を利用したサーベイ調査による検証 —

ニッセイ基礎研究所 北村智紀

中嶋邦夫

本研究は、30～49歳までの男性会社員を対象に株式（株式投資信託を含む）の保有と金融資産に占める株式への配分（需要）の要因を分析する。データは、被験者を管理したインターネット上のサーベイを利用して取得した。まず、予備調査を行い、株式保有の有無と、会社で確定拠出年金（DC）への加入の有無を聞き、下図のように各200名程度の被験者を対象に本調査を行った。

予備調査		株式・株式投信	
		保有	非保有
DC	加入	N=約200	N=約200
	非加入	N=約200	N=約200

分析は、株式保有や配分の要因を説明する回帰式を推計した。被説明変数は、現在の株式保有の有無やその配分、あるいは、将来にどの程度株式を増やしたいかの意思であり、説明変数は、リスク回避度、時間選好率、主観的な株式の期待リターンやリスク、株式投資の過去の経験、主観的な株式投資へのコスト、金融・経済に関する知識、自信過剰の度合い、年収・金融資産額・家族構成などのプロフィール、会社におけるDC加入の有無、流動性等である。分析結果は大会で報告する。